

公益社団法人 三国・芦原・金津青年会議所 2024 年度
スローガン・基本理念・基本方針・運営方針

2024 年度理事長 木村 達也

【スローガン】

Exciting MAK

～ワクワクする MAK 地域の実現を目指して～

注：MAK=Mikuni.Awara.Kanazu（三国・芦原・金津）

【基本理念】

●はじめに

我々、MAK・JCは54年目を迎える活動の中で、地域全体の発展を願い運動を展開して来ました。地域社会においても、これまでにナホトカ号の重油流出事故による環境災害や豪雨災害など、様々な災害を経験し、乗り越えながら発展を遂げて来ました。さらに昨年まで猛威を振るっていた新型コロナウイルスが5類感染症に移行した事で、人々の生活もようやく活気を取り戻しつつあります。「ウィズコロナ」から「アフターコロナ」への転換に伴い、経済正常化への期待が高まっている中、我々MAK・JCの運動においても、明るい豊かな社会の実現に向けて、青年としての知恵と行動力を発揮し、活発に運動を展開していく機運が高まっています。

私は三国町で生まれ育ち、地元には強い思い入れがあります。この地域には、豊かな自然や多くの観光資源があり、北陸新幹線の延伸も間近に迫った今、交流人口の増加や経済への波及効果が期待されています。しかしその一方で、少子高齢化や人口減少などの地域課題も山積しているのが現状です。それらの課題解決に真剣に取り組み、一致団結して明るい地域社会の実現を目指し行動することが青年会議所の使命であると考えます。我々、MAK・JCは、難解な課題ほどチャンスと捉えて志高くポジティブな姿勢で挑戦し続けることで、「ワクワクする MAK 地域」の実現を目指し、来たる55周年に向けて飛躍する一年を目指します。

●Exciting MAK～ワクワクする MAK 地域の実現を目指して～

私は入会して5年目を迎えます。初めは自分自身の成長の為に入会を決めたものの、何がやりたいのか具体的な事柄もなく、ただ例会や事業に参加する日々を送っていました。そんな中、初めて事務局長という役職を任されたことが私の転機となりました。1年間の目標を立て所信を書く、事業を計画し議案を作る、全てのことが初めてで正直な所、不安な気持ちが大きかったです。しかし、事業が成功し、1年間の目標が達成できた様子や、自信が成長

を遂げる姿を想像すると、ワクワクして活動に対して意欲的に取り組むことが出来たのです。「ワクワク」とは、嬉しい、楽しいことが起きると期待して興奮し、心を躍らせ、心が落ち着かないさまを表現する言葉です。MAK・J C のメンバーをはじめ、拡大候補者や、地域に住み暮らす多くの人達をこのような気持ちにさせることが出来れば、我々の取り組みが実を結び、明るい地域社会への貢献ができると考え、今年のスローガンを掲げました。

我々、青年会議所には「明るい豊かな社会を実現する」という壮大な目的があります。それが実現した時のことや、自分達がどのような成果を上げて貢献できたかを想像すると、とてもワクワクするはずです。私はMAK・J C を卒業するまでこの気持ちを持ち続け、今まで支えてくれたメンバーにもこの思いを波及させたいと考え、理事長という役職に挑戦することを決めました。明るい豊かなMAK地域を実現するという目的にメンバー全員がワクワクしていれば、必ず明るい地域社会は実現すると信じています。

●まちづくり～ワクワクするような魅力ある地域の未来を描き築く～

日本では、急速な少子高齢化の進行による人口の減少が社会問題となり、それらに歯止めをかけるべく、首都圏一極集中を是正し、それぞれの地域が自らの地域資源を活用して、将来に向かって活力ある地域社会を創造することが求められています。私達の地域には豊かな自然や観光資源があり、それらの特色を生かし、地方創生に取り組む事で、日本の明るい未来に繋がると確信しています。また、2024年には北陸新幹線の延伸という大きな転換期が訪れます。この地域にも新幹線の停車駅があることから、地域特性を最大限に活かし、インバウンド需要に応えるような取り組みを推し進めることで、交流人口の拡大に繋がり、地域産業の発展に寄与できると考えます。

地方創生を推進していく為には、若い世代の人達が集まりたくなる様なまちづくりに取り組まなければなりません。我々、青年会議所が中心となって地域課題と真剣に向き合い、地方自治体やまちづくり団体、地域の方々との情報共有を通じて地域の魅力を発見し、より世間に周知してもらえるように発信します。また、新たな地域の魅力となる様なアイデアを考え、創り出していくことで地方創生に貢献できると考えます。私達がこの地域で活動する青年団体としての発見、発信、創造力で地方創生に取り組み、ワクワクする地域の未来を創造します。

●ひとづくり～ワクワクする未来を描ける青少年への育成～

地域の明るい未来を考える上で青少年の育成は重要な課題だと捉えています。近年の情報化社会の進展は、地域の間関係の希薄化を招き、子供のコミュニケーション能力の低下などにも繋がっていると考えられます。このため、青少年が様々な社会活動に参加できる仕組みづくりを進めるとともに、一人ひとりが個性や長所を発揮できる機会を拡充するなどして、青少年の健全な育成を推進していかなければなりません。

子供たちの成長はワクワクから生み出されると考えます。胸が躍る様な体験や学びによって、好奇心や探究心を刺激し、この土地の風土や地域特性を生かした事業で、地域の子供たちの生活圏に多様な体験を提供する場を設けることで、青少年たちの郷土愛を育みます。さらに地域課題に触れてもらい、考える機会を創ることで、積極的、能動的に行動できる青少年への成長を促進し、ワクワクしながら地域の未来を描ける青少年への育成に取り組みます。

●会員拡大～ワクワクする夢に人が集まる～

日本の青年会議所における会員数は約28000名と推定されており、年々減少傾向にあります。40歳までで卒業ということもあり、全国的に在籍年数の減少も大きな課題と言えます。我々、MAK・JCも例外ではなく、このまま減少し続ければ、LOMの消滅もありうる危機的状況です。ですが、この地域の未来のためにもこの地に青年会議所は必要であり、会員減少は、なんとしてでも食い止めなければなりません。

青年会議所は部活動に似ています。部活動も新しい部員が入って来なければ廃部の危機にさらされます。では強豪校に毎年多くの部員が集まるのは何故でしょう。弱いチームは部活動の存続のために、人がいないから部員を勧誘する。それでは共感は生まれません。強豪校は「全国大会に出る」「日本一になる」という夢があります。そのワクワクする夢に人が集まるのです。そのために、日々の練習も大変な強豪校に入るのです。

青年会議所は「明るい豊かな社会を築き上げる」ことを理想とし、地域との協働により社会の発展に貢献することを目的としています。その理念に共感を得て、心を躍らせ参加したくなるような運動を発信する事で人が集まり、それをメンバー全員が共通認識することで、拡大に寄与することが出来ると考えます。我々MAK・JCの存在すら知らない若者は沢山います。実際、私も入会のきっかけとなった異業種交流会に参加するまで、その存在すら知りませんでした。今年度は発信力を強化し、青年会議所の理念を波及させワクワクする様なJC運動を周知することで、会員拡大を達成します。

●人財育成～チーム全員が夢にワクワクすれば圧倒的な成果を生む～

青年会議所は、人を育てる組織であると捉えています。私も最初は自己成長のために入会を決めました。会員は一年毎に様々な役職を経験することで、豊富な実践経験を積むことができ、自己修練の成果を個々の活動にフィードバックさせていくことができます。しかし在籍年数の減少や、出席率の低下などにより成長の機会が希薄になっていることが懸念されます。これらの課題と向き合い、多くの成長の機会を提供することで、自発的な人財へと育成することが求められます。

チームの組織力強化を図るためには、メンター型リーダーシップによる対話での気づきと助言で、尊敬と憧れによって仲間のやる気を最大限に引き出し、自発的に自らの能力と可能性を最大限に発揮できる自立型人財に育成することが求められます。またメンバー全員

が主体性を持って活躍できる組織となれるよう理念を浸透させ、青年会議所の存在意義への共感を生み出す環境を整えることで、自主的な提案などによる意欲的な組織貢献が実現します。この考えを持ってメンバー全員が楽しみながら運動を展開していけば圧倒的な成果が生み出されると確信しています。

●ワクワクする MAK・JC への変貌～楽しいことこそが最強～

これまで MAK・JC は長きに渡り、明るい豊かな地域社会の実現に向け、運動を展開してきました。翌年には 55 周年も迫る中で、今後も地域社会を明るく照らす存在であり続けるべく、持続的に運動を展開し続けなければなりません。地域社会においても、刻々と成長と発展を遂げていく中で、我々の組織も進化し続けることで、地域社会において、その存在価値が示せると考えます。これまでの慣例や習わしも大事ですが、変化をもたらすために、挑戦を恐れず行動を起こしていくことが重要であり、変革こそが持続可能な組織への成長の鍵とも言えます。

この組織が明るい地域社会に向けたより良い取り組みを推進していくためにはインナーブランディングを行い、組織の理念や存在価値を共有し、メンバー全員が正しく認識できるように促すことが重要です。対内への広報活動の徹底と会議や事業の参加しやすい環境づくりへの取り組みで、変化への恐れをビジョンへの推進力に変えていきます。

「心が変われば行動が変わる。行動が変われば結果は変わる」という言葉があります。手段や方法といった、やり方ばかりを重要視するのではなく、「どんな気持ちでやるのか」といった心のあり方を重要視することで最高の結果が生まれると考えます。またメンバー全員がワクワクし、楽しみながら運動を展開していければ、最高の結果が生まれる。つまり楽しいことこそが最強なのです。今年度は変化や挑戦を恐れず行動し、ピンチはチャンスと捉え、楽しみながら運動を展開していける組織へと進化を遂げます。

●結びに

「アフターコロナ」への転換に伴い、社会にもようやく活気を取り戻しつつある中で、我々、MAK・JC も積極的に運動を展開していかなければなりません。またメンバー全員が心のあり方を見つめ直し、胸躍らせながら運動に取り組んでいければ、組織に成長と発展をもたらし、圧倒的な成果が生まれると確信しています。挑戦を恐れず前に踏み出すことで変革の起点となり、一人ひとりの自発的な行動による活発な運動展開と、発信力の強化で、期待され興奮するまちづくり、ひとづくり、組織の発展へと繋がります。地域社会の明るい未来を考え、楽しみながら行動し、ワクワクを波及させて、ワクワクする MAK・JC への進化と、ワクワクする MAK 地域の実現を目指しましょう！

【基本方針】

- ・地方創生を推進しワクワクする地域の未来を創造する

- ・ワクワクする未来を描ける青少年への育成
- ・発信力強化でワクワクする J C 運動の共感拡大
- ・メンター型リーダーシップによる自立型人材への育成
- ・ワクワクする MAK・J C への組織変貌

【運営方針】

- ・メンバー全員による積極的な会員拡大の推進
- ・拡大実施情報の共有
- ・拡大ツールの企画、開発
- ・会員拡大に関する事業の実施
- ・会員開発に関する事業の実施
- ・北陸新幹線延伸に伴う地域間交流拡大推進事業者の実施
- ・青少年育成事業の実施
- ・新まちづくり事業の実施
- ・2024年度 MAK・J C 運動方針・事業説明会の実施
- ・市民サポーターとの交流事業の実施
- ・新年会の実施
- ・理事会、総会議事録の作成
- ・総会、例会、理事会の設営
- ・HP、SNS の更新管理と発信
- ・公益会計基準に則った財務管理
- ・近隣 LOM との合同例会の開催
- ・福井ブロック協議会への協力ならびに支援
- ・日本 J C が開催する事業の積極的な参加